

シリーズ街びと「わが道、わが仕事」

休日はクレープ屋さん【後編】

キッチンカーオーナー・平田有弥子さん

こだわることを見極める

「副業にしたのは、なぜ？」

いまの職場の採用面接に臨む際、キッチンカーのことはいったん脇に置いておこう、と思っていました。ところが「キッチンカーやってるんですよね。やめちゃうんですか」と面接官から言われたんです。そして「うち、副業大丈夫ですよ」と仰っていただきました。本当に偶然でしたね。

「なぜ、クレープ屋さん？」

「何ででしょうねえ。クレープ店を開業する人を取材したテレビ番組を見て「私にもできるかも」といった気負わな



※クレープ生地を焼く平田さん

い感じですかね。これがよかったかも。はじめは商品やサービスにこだわっていいけど、意気込んでいましたが、こだわり出すとキリがない。ある日、先輩キッチンカーの人から「こだわりを捨てるのも必要だよ」と言われハッとしました。忙しい時のお客様対応では、こだわりが邪魔になることがあります。お客様が満足するためのことは大切に、自己満足的なこだわりはカット。そうしたら心も体も楽になりましたね。

「一人で働く良し悪しは？」
お客様がいないと寂しいです。一人だと、トラブルが起きたときに困っちゃうというところもありますね。でも、何でも自分で決め、思い通りにできる楽しさがあります。お客様とゆっくり話ができるのも楽しいですよ。次はコンビーフペッパーチーズを注文します。(終)

推しコメ(人物編)

(筆者：土方 洋)

沢登 聖人

(さわのぼり まさと)



※出典：DEAR BOYS 第3部21巻より

マンガDEAR BOYSの報われないエリート。新潟県天童寺高校バスケット部主将。独りよがりではなく、仲間の強みを引き出す真のエリートだ。「自分だけじゃない」が信条。転校した主人公に教えたダンクで、何と逆転負け。エリートらしからぬ未来を歩んでいくような予感が漂う。

コラム「自問自答」

(筆者：結城 雪)

私はクレープが大好きだ。クレープはとてもおいしくて、人を笑顔にしてくれる▼さて、好きなものがあると、それを職にしたくなる▼さて、好きなものがあると、それで生活できたら。どこの店舗で働こう、いや、キッチンカーもいい：といった具合に考えた。しかし、私は接客があまり得意ではないし、お金の計算も大の苦手。そして人に見られると緊張してしまう。私がクレープ屋になるのは困難すぎた。私は落ち込んだ。クレープの魅力伝えることは私にはできないのかと思った▼そうやって日々を過ごしているとき、この広報誌のコーナーである「推しコメ(フード編)」を書く機会をいただいた。そこで気づいた。この執筆活動も、クレープの魅力伝えることではないかと。私がたどり着いた一つの形であった▼夢を叶える手段は、一つとは限らない。短所だけでなく長所を見ると古典的なこの方法は、確かだからこそ古典的と言われるようになったのだ。

【気まぐれ欄】今月のおすすめ本【Book Review】

※今月は読書好きメンバーによるおすすめ本の「書評」です。



『甘々と稲妻』

著者：雨隠ギド

出版社：講談社

発行日：2013年9月6日(第1巻)

【評者：結城 雪】

妻に先立たれた高校教師・犬塚公平は、幼い娘を育てなければならぬ料理が苦手。しかし、あることをきっかけに、教え子である飯田小鳥、そして娘のつむぎと料理を作っていくことに！小鳥の秘密、進路、そしてつむぎの成長を描くこの作品、作中登場する料理が特徴的。ほとんど家庭で再現可能である。どんな料理か気になったら、読んでほしい。そんな日常の料理が学べることに加え、つむぎの感情表現も大きな魅力。実は、作者は幼稚園勤務を経てデビューしたという経緯があり、その影響かつむぎの行動にはどこかリアルティを感じる。遠い日の忘れ物を見つけたような、非常に穏やかな気持ちになれる作品である。



チャレジョブセンター熊谷

熊谷市桜木町1-7-9 武州熊谷駅前ビル3F

TEL: 048-578-8401 FAX: 048-578-8402

チャレジョブセンターHP

<https://challe-job.co.jp>

